

この話は、特に大企業の下で働く、子会社の社員、下請け及び派遣労働を行う人達に聞いて欲しいと思います。

敵はアメリカの1% 今こそ日本をひとつに

仕事というものは、繰り返すうちに徐々に無駄がなくなり楽になっていきます。だんだん便利な方法が見つかり、楽になっていきます。

私の仕事もそうでした。エクセルでフォーマットを用意したり、マクロを使う等で、どんどん楽になっていきました。効率化しようと思えば、もっと出来るのです。だけど、そんなことは言わないし、誰もやろうとしないのです。そんなことをすると、余計な仕事が増えたり、誰かが雇止めにあたりするからです。みんなの反感をかわないようにしながら責任回避と、自分は出来る人間だというアピールだけしておくのが正しいのです。

分断と解雇によって一体感が失われた集団は大変に弱いです。皆が保身に走るからです。

今の世の中は、かなりおかしいです。震災があっても何も変わりませんでした。そして、マスコミと政治は明らかに信用を失いました。

会社に行けば、低賃金の人達が一生懸命に働き、高給取りがソファでくつろいでいる。パソコンを開けば、互換性を武器に買わされた高額なソフトと、個人が趣味で作ったフリーのソフトウェアが並んでいる。働くことと、賃金を貰うこととの関連性が、どんどん失われている。

いったい、私達の仕事は、誰の為のものなのでしょうか。私達の仕事は、誰を喜ばせる為のものなのでしょうか。私達のまわりには、子供のいない30代、40代の人達がたくさんいます。

社会を変えることはできる

9月の原発に反対するデモで、私はこんな話を聞いた。「私達は、業務の外注化、会社の分割子会社化請負、派遣、非正規の全てに反対なんです。今の組合は会社と仲良くなってしまい組合の原則を貫こうとしない。私たちは徹底的に闘うのです。」

「労働者の側が、独立を希望した場合はどうなるのですか。」

「その時は、設備等は全て自前で用意してもらおう。会社の設備の一部を借りるようなやり方は許さない。」

当時、私はNTTコミュニケーションズの子会社であるテルウェル東日本という会社に、派遣社員として勤務していました。組織再編に伴う重要な業務に利用された上での、8月末に行われた一ヶ月前の解雇予告には腹を立てていましたが、明らかに退屈で非効率な勤務実態には疑問を感じていました。効率化を目指したNTTコミュニケーションズの組織再編は支持していた為、会社の判断であれば仕方がないと思っていた。

しかし、話を聞いて意見を変えた。私の質問に即答した彼らの意見には、しっかりとした理念が感じられた。そして、彼らの理念の方が、会社の抱える問題と、今の社会が抱える問題を根本から解決してくれると感じた。日本は、また強くなれると思った。

西部ユニオンに加入してすぐに、「10.8首都圏青年労働者集会」の案内があった。しばらくして私は、集会での発言を求められるようになったが、それは、青年部長と一緒に登壇して、派遣会社であるNTTソルコとの団交での怒りをぶつけてくれと言うものだった。しかし、私はそれをしなかった。

集会があるまでの間に、私は雇用主である派遣会社と2度の団体交渉を行っていた。確かに派遣会社の対応は予想できないほど酷いものだったが、それよりも私の怒りは、この戦いを派遣会社との戦いで終わらせようという組合の姿勢に向けられていた。

法律では、直接の雇用主と争う以外にないという事だが、私が西部ユニオンを選んだ理由は、今の組合のあり方を変えるために徹底的に闘う組合だと思ったからだ。

みんなで助け合い生きていける社会にしたい

私は、「子会社、下請け及び派遣社員」という新たな枠組みで集まろうと呼びかけることにした。親会社の方針に大きな影響を受けるにもかかわらず、直接に親会社と闘うことが出来ない全ての人で集まろうということだ。

早速、計画をまとめ、修正を受けて許可を得た後に、発言内容をまとめて発言許可を得た。結果的に私は、集会の最後から二番目という好位置で、青年部長の持ち時間のほとんどを一人で喋りきり、一人だけ他の発言者と別の主張をしていたにもかかわらず、集会後、多くの人から賞賛の声を掛けられることとなった。

多くの発言者が、「労働者の団結」を主張する中で、一人だけ「みんなで助け合い生きていける社会にしたい。」と主張した。しかも、みんなの中には経営者も入っていた。彼らが、資本家を絶対悪とみなしているのを知って、わざと入れたのだ。

もしも組合の人たちが保身に走っていたら、組織を守るためであったり、自分達の思想を守るために、このようなことにはならなかっただろう。皆が変革を求めていると感じた。

集会前の革命的共産主義の勉強会で、大学でマルクス経済を学んでいた私は、得意になってロシア革命を否定する説があることを披露してしまった。彼らにとってはスターリン主義こそが悪であり、ロシア革命は絶対的なものだった。それでも最後は、積極的に発言した私を讃え、握手を求めてくれた。

集会後も、集会での私の発言について多くの人が褒めてくれた。集会を締めくくるにふさわしい内容だったと讃えてくれた。その一方で、私が呼びかけていた「子会社、下請け及び派遣交流会」の日程と場所は、なかなか決まらず、ずるずると伸びていた。結局、青年部で決めることになり、青年部の集まりを待つことになった。

世の中のあり方を根本から変えたいんだ

この日の集まりほど酷いものはなかった。特に出だしが悪かった。ビラに派遣会社との団交を載せるように指導が入った。ビラの内容は、集会の発言前に概ね決まっていたが、発言の評判が良かったので、その内容をそのまま載せることにしていた。

私は声を大にして、一日も早く日程と場所を決めることの重要性、この日が来るのを待っていたことを話した。しかし、青年部では決めることが出来ないという回答だった。一体何のためにこの日を待っていたのか。

更に、この内容では、親会社の社員と団結することが出来ない。と指摘を受けた。団交の話もそうだが、私は集会前と同じことを、また説明しなければならなかった。

私の知っている西部ユニオンは、道徳無き資本家のあり方と、主に親会社の社員からなる既存の組合を痛烈に批判した上で、ばらばらに分断されてしまっている現状を嘆いていた。

左翼というのは不思議な人達だ。どんなに格差が広がり立場に違いが出て、親会社の社員は、あくまで同じ労働者であり、分断された現状を嘆いているのだ。一方で、どんなにちっぽけな相手でも、資本家というだけで平気で分断し、戦ったことを誇らしげに主張できる人達なのだ。

社会活動に興味がない人には、どちらも馬鹿馬鹿しい事かもしれないが、私にとって、自分の所属していた派遣会社と争うなんてことは社会活動を行う上でのステップでしかなく、それ単体では、むしろ恥ずかしいことでしかない。

彼らはずっと、私のことを可哀相な犠牲者として扱う。失業の怒りで世の中を変えようと言う。そんな事よりも私の怒りは、目先の失業にこだわる組合の姿勢に向けられていた。彼らにとって反失業は、反原発に並ぶ重要なテーマだった。今までの活動で大切にしてきた重大なテーマであった。だからこそ、私は、おかしいと思っけていても、なかなか指摘することが出来なかった。

「世の中には仕事がいっぱいある。手の付けられていない田んぼ、後継者のいない漁村、畜産業、復興の進まない被災地。産業革命以来、私達は、よりお金になる仕事を追い求めてきた。工業や、サービス業、金融業、そうやって、農業や、家庭での子育てといった、我々の生活に必要な本当に大切なものを置き去りにしてきた。労使が一体となって、もっと金になる仕事は何だ、もっと賃金上げろ、もっと仕事よこせと、追い求めてきた成れの果てが、今の原発産業じゃないか。私は、今の世の中のあり方を根本から変えたいんだ。」

仕事というものは、複雑な道具に頼れば頼るほど、本来のやり方、本来のあり方を見失いやすくさせるものなのです。だから私は、エクセルで関数やマクロによって効率化した業務のマニュアルも、大切に保管していました。アクセスを使った業務の中には、設計者が居なくなった為に対応できず、やり方を見直す必要に迫られたものもありました。

組合の活動方針は、マルクスの生きた時代背景のもとに生まれた思想を、その後の歴史や膨大な情報を元に、更に大きく進化させたものでした。

ひとつひとつ取り戻していこう

組合内に静かな時間が流れ、翌日から、組合の雰囲気は少し変わった様でした。彼らは、少し戸惑っているようだった。

組織というものは、変えられるようではなかなか変えることが出来ない。しかし、明確な目標のもとに一体となった時に大きな力を生み出すことができます。具体的なビジョンが必要だ。

具体的には、親会社の社長に交渉を求め、応じようとしなない場合は労働組合らしく、人数を集め、デモ等のあらゆる手段を駆使して迫ろうと思う。

そして、業務の外注化、会社の分割子会社化、請負、派遣、非正規の全ての廃止を求めて、まずは、実態の把握と賃金格差の是正を求めて闘いたい。

そして、それが出来ない原因が既存の労働組合にあるのであれば、その時は同じ労働組合として交渉を迫り、闘いたい。相手が労働組合であっても徹底的に闘いたい。

こうして、ひとつひとつの企業の在り方をただし、分断と非効率の無い強い組織を取り戻していくのです。

ひとつひとつ本来の形を取り戻していく活動を、今、始めようとしています。

大切なのは普通の人達に気付いてもらうこと

今、世の中は大変なことになっています。アメリカを始め、世界各地で格差是正を求めて巨大なデモが起こっています。原発のデモに関しても、日本では、9月の6万人が最大であるのに対して、ドイツでは25万人が集まり、原発を止めました。

このビラを作成するにあたって、組合の方からは、こんなことを言われました。「こんなビラでは、一人集まれば良い方だ。」それは、世の中全体のことよりも、もっと具体的な自分自身に起こった不幸をアピールして、自分の為に闘うことをアピールしなければ人は集まらないという事です。それが長年の組合活動の経験から導き出された答えでした。

世の中全体が上手くいっている時は、その方法は有効であると思います。自分自身の不幸をアピールし、社会の成長から取り残された一部の人を狙って、自分と同じような仲間を集める。私も勝ち組にして下さいと求めて闘おうと言う、極めて個人主義的な発想は、今でも有効であると思います。そして当時は、それ以外の方法は難しかっただろうと思います。

しかし、今の世の中はどうでしょうか。世の中全体は、上手くいっているのでしょうか。今の世の中で大切なのは、自分と同じような仲間を集めることではなく、解雇もされていない、賃金カットもされていない普通の人達に、この不幸な現実気付いてもらうことだと私は思います。

効率化と競争社会の成れの果てが、恐ろしい非効率を生み出した。いったい私達は今まで、何を競って来たのでしょうか。何の効率を追求していたのでしょうか。この不幸の原因は何なのでしょう。

今の世の中の現状にあって、日本だけが、いまだに個人主義的な発想しか出来ないとしたら、本当にこの国は根元から腐りきっていると思います。

私達も勝ち組にして下さいと言う、既存の組合的な発想も、枠組みを広げただけで、本質的にはまったく同じです。

当日は、このビラには載せることの出来なかった私の真意についても、多少のお話をしたいと思っています。各人の立場等により参加できない場合もあるとは思いますが、何らかの形でご意見だけでも頂けると有難く思います。よろしくお願い致します。

もう一度、読んでみよう♪

子会社、下請け、派遣交流会

11月18日(金) 19:30開始 (会場は18:00から使えます。)

高円寺北区民集会所 第四集会所 〒166-0002 高円寺北3丁目25番9号

ご意見下さい → 903spo@gmail.com 森岡